

春スキーは景色とともに

農家さんたちが忙しく動き出す5月上旬、地上の雪は姿を消し、木々は新緑を蓄え始めました。

スキーシーズンが終わったかに思えるこの季節、遠く大雪山の山並みはまだまだ白く、多くの雪が残っています。改めてここ東川は雪国だということを実感し、僕ら滑り手にとっての春スキー・セカンドシーズンが始まるのです。

春の山は雪崩という最大のリスクが少なくなつて天候が安定しやすく、厳冬期とは違う顔を僕らに見せてくれます。流れる雪解けの水の音、鳥たちのさえずり、青い空と雲、新緑と残雪のコントラスト。まばゆい雪の上を歩きながら贅沢を実感します。

ところで、どのようにしてスキーで登っているの？と思われる方が意外と多いようなので、ちょっと説明します。

山スキーで登る時は、スキーの裏にシール(スキンとも言う)という特殊なナイロンを装着します。これでスキーは前方向にしか進まず、後ずさりをしない一方通行になります。もちろん滑るときにはシールを外すので、通常のスキーのように滑り降りることが出来ます。このようにして歩行と滑走の機能を両立しているのです。



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。



夕暮れの前十勝岳 (平成26年5月)

近年ではスノーボードもこの方式を採用し、スプリットボードといってスキーのように歩行出来るものも浸透しつつあります。

春の山は厳冬期のように深い雪はほぼないので、起伏の少ない平坦な雪の上を快適に歩み進むことが出来ます。そういう意味では、バックカントリーの初心者や入門者、ステップアップしたい方にとって良いシーズンなのではないでしょうか。生命力に溢れ、山の息吹を感じることができる最高の季節。お勧めですよ。

ノマド店主 小畑 吾郎



5月の祝日と記念日

国際交流員

尹 昭熙 (ユン・ソヒ)

例年より早く訪れた春に心躍る5月となりました。5月といえば祝日がいちばん多い月ですね。春とともにゴールデンウィークを楽しみにしていた方も多いのではないのでしょうか。韓国でも一番祝日が多い月なんです。

日本のようにゴールデンウィークはありませんが、いろんな祝日や記念日があります。「1日」は「勤労者の日」という祝日で、仕事漬けの社会人には楽しみな日です。「5日」は「こどもの日」です。親はこどもにプレゼントをあげたり、遊園地などに出かけたりして、こどもが好きなような旅行地がにぎわいます。「8日」は「父母の日」で、お休みではありませんが、父と母に日ごろの感謝をこめてカーネーション



お寺に飾っているたくさんの紙灯笼

ンを贈ります。道端にはカーネーションを売る出店が出て、手軽に買うことができます。そのほか、「16日」は成年の日、「21日」は夫婦の日などがあつり、5月は家庭の月と呼ばれています。旧暦の4月8日は「お釈迦様の誕生日」で祝日となっています。旧暦で数えるため毎年違う日になります。今年5月14日、土曜日ですね。お釈迦様の誕生日には、お寺で盛大なイベントが行われ、街並みに沿って蓮華の花をかたどった紙灯笼が飾られます。

「15日」は「先生の日」でお休みではありませんが、恩師に連絡を入れたりして感謝の気持ちを伝えます。学校では担任の先生にドッキリなど簡単なイベントをしかけるクラスも多いです。韓国の祝日は、主に歴史的な意味を持つ日が多いといわれています。5月

は人をいたわり、縁と絆を深め、感謝の意を伝える月という意味を持っています。近い間柄だからこそおそろそかになるのではなく、日ごろの感謝をきちんと伝える大切さを戒めているのかもしれない。